

2014年5月4日 聖餐礼拝

説教 愛による創造

創世記1章 26-31 節

【神のかたち】

「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて」(26)。神さまには「かたち」がないのに、どうやって似せることができるのでしょうか。ここでも「愛」が問題。聖書というのは、金太郎飴に似ています。どこを切っても神さまの「愛」が出て来る。天地創造にも「愛」。アブラハムの選びも「愛」。ダビデが罪を犯すときにも、そして、黙示録で天地が新しくされるときにも「愛」。

ヨハネの手紙 第一にも「神は愛だからです」(4:8)とあります。そして、その愛がもっとも鮮やかに表れたのが十字架です。「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです」(4:9)。神さまの本質が愛。そして、人はその神さまの本質に似せて造られました。愛することができる存在。愛されることができる存在。それが、「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて」と神さまがおっしゃった意味です。私たちは神さまになんとなく似ているわけではありません。神さまの神さまたるところ。神さまの一番すばらしいところに似せて造られたのです。

【なぜ人を殺してはいけないのですか】

アイルランドの元テロリストであったブラウン宣

教師は、「以前は、自分が人殺しをしたら、親兄弟がどんなに悲しむかわからない」という思いが、自分に殺人を思い留まらせていた。けれども、神さまを知ってからは、「人を殺してはいけない」ことのまったくちがう理由がわかったと言います。私たちは、愛するために造られたお互いだから、殺してはならないのです。愛するため、たがいを与え合うために造られた私たち。そんなすばらしい目的のために造られた私たちであることを、あらためて喜びたいと思います。

【われわれのかたちとして】

「われわれのかたちとして、われわれに似せて」の複数形は尊厳の複数と呼ばれます。けれども、クリスチャンたちは、ここに三位一体を読み取ろうとしてきました。27 節に「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女に彼らを創造された」とあります。身も心もひとつとなって愛し合うために造られた私たち。人は愛するために造られています。まずは、神を愛するために。そして、たがいに愛し合うために。愛するということは、自分を与えること。人は自分を与えて初めて、幸せになることができます。そのように造られているからです。

そして、神さまの成り立ちは愛。天地創造の前から、父と子と聖霊の愛の交わりのうちに、存在しておられる。たがいに愛し合う三位一体の神が、その愛を溢れさせるようにして、愛による創造を行った。愛は自分を与えること。神さまの溢れる

愛は、ご自分の中にとどまっていることができない。神の愛は、愛する相手を求めて、天地創造へと溢れ出す。そして愛することができる人間を創造された。神さまのように愛することができる存在。神を愛し、男と女に造られて互いを愛し合う存在。そして、造られた人間以外の被造物をも愛することができる存在。「彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように」(28)というのは、自分の好き勝手に利用するというものではありません。愛すること、愛をもって養い育てること。私たちは神さまに似せて造られました。神さまを愛し、たがいを愛し、そして自分のケアを必要とする他の被造物のために心を砕くことができるほど、神さまに似た者として造られたのです。

【ライフ・トランスフォーメーション】

救われた私たちのライフ(「人生」、「生活」、「いのち」)には、既にトランスフォーメーション(今までのかたちが変わること)が起こっています。そして起こり続けているのです。生きるの意味が変わり、新しいライフスタイルが生まれているのです。そして、新しい決断と行動が生まれ続けているのです。

神さまが、ご自分の本質である愛を与えてくださった私たち。今、この愛が溢れるのを、とどめてしまうことがないように。愛を妨げるいっさいから解放たれて、溢れるままに、流れるままに、たがいに愛を注ぎ合いたいと思います。